

平成26年度

教育委員会

教育行政点検・評価報告書

(対象：平成25年度事業)

防府市教育委員会

平成26年10月

は　じ　め　に

近年、少子高齢化や高度情報化、社会・経済のグローバル化、経済格差の進行などにより社会全体が急激に変化している中で、家庭と地域のつながりや、人々の価値観も大きく変化しており、子どもたちの学ぶ意欲や学力・体力の低下、家庭や地域の教育力の低下、いじめ問題や社会全体における教育意識や倫理観の低下といった課題が顕著となっています。

そのような中、防府市教育委員会では、「教育のまち日本一」を念頭に置き、本市教育の基本方針である「生きる力」を備えた人材を育むことを教育の推進目標に、それぞれの教育分野における重点施策を掲げ、その施策に添った事業を実施しています。

教育行政点検・評価は、それぞれの事業の執行状況等を、「到達度」・「事業効果」・「効率性」・「方向性」の4つの視点により各課において自己評価を行い、学識経験者による意見を反映させて作成したものです。

教育委員会としましては、この教育行政点検・評価報告書により、防府市教育の推進目標に沿った、教育委員会各課の重点施策がどのように展開され、どのような進捗状況にあるかを公表することにより、幅広いご意見を今後の教育行政に生かすとともに、教育政策立案を的確に行い、より良い教育行政の推進に努めてまいります。

目 次

■ 点検・評価基準について	1
■ 平成25年度教育委員会の重点施策等の点検・評価	
1 教育総務課	2
2 学校教育課	5
3 生涯学習課	20
4 文化財課	31
5 スポーツ振興課	36
6 図書館	40
■ 学識経験者の総評	49

■ 点検・評価基準について

1 点検・評価の目的

防府市教育の推進目標に沿って、広範かつ専門的な教育行政事務が効果的に執行されているかを教育委員会自らが事後にチェックし、その活動を改善するとともに市民に対する説明責任を果たすことを目的とします。

2 点検・評価の対象

平成26年度の点検・評価対象は、平成25年度「防府の教育概要」に掲げている教育委員会の重点施策事業としました。

3 点検・評価の方法

事業についての概要・実績等を、「到達度」、「事業効果」、「効率性」、「方向性」で評価したうえで、事業の各評価項目の評価点数を基に総合評価のランク付けを行いました。

4 評価（評価の視点）

評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
評価の視点 点数	<ul style="list-style-type: none"> ・事務や事業の達成状況 ・課題等への対応状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性 ・本市教育への寄与度合 	<ul style="list-style-type: none"> ・投入資源(経費、人材、時間)の妥当性 ・経費削減の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の事業展開方針
4点	事業を計画どおり実施し、事業の課題や改善策、懸案事項についても十分な対応ができた。	事業効果が非常に高く、他事業にも良好な波及効果を生じさせた。	経費削減の工夫がなされ、費用対効果が高かった。	有益な事業であるため、今後、事業を拡充して実施する
3点	概ね計画どおりに事業を実施できた。	事業実施により期待どおりの事業効果があった。	事業内容に相応の投入資源で、効率的に事業を実施できた。	今後も継続して事業を実施する。又は、事業目的を達成したため事業を終了する。
2点	事業の実施状況にやや不十分な面があった。	期待していた事業効果にはやや達しなかった。	一定の事業効果を得るために必要以上の投入資源を要した。	事業内容の見直しが必要である。又は、今後、事業を縮小する。
1点	計画していた事業の一部しか実施できなかった。	事業効果が低かった。	事業の効率性が低かった。	今後、事業を廃止する。

5 総合評価

評価	AA	A	B	C
	優良	良好	努力	反省
点数	16・15点	14～12点	11～9点	8～4点

■ 平成25年度教育委員会の重点施策等の点検・評価

〔1〕 教育総務課

◎ 基本方針

教育の様々な課題に柔軟かつ迅速に対応し、教育委員会及び教育部各課の連携のもとに円滑な教育行政の推進に努める。

また、学校施設は多くの児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、耐震化推進計画に基づく耐震補強事業を最優先して実施し、児童生徒が安全で安心のできる教育環境の確保を図る。

◎ 学校教育の質の向上

(1) 教育振興基本計画の策定

事務事業	防府市教育振興基本計画の策定					
事務事業概要	<p>本市の教育基本方針である「生きる力」を育むことを目的として、本市のめざすべき教育の姿や今後取り組むべき施策を定めた、防府市教育振興基本計画を策定する。</p> <p>庁内委員会と外部委員会による防府市教育振興基本計画策定委員会を開催し計画案を作成するとともに、広く意見を取り入れるためパブリックコメントを実施し、計画の策定を完了する。</p>					
平成24年度事業の課題・改善策	引き続き策定委員会等を開催し、計画案を策定する。また、広く意見を取り入れるため、パブリックコメントを実施し、平成25年度末までに計画の策定を完了する。					
事務事業実績	策定庁内委員会並びに策定委員会を開催し、計画案について協議、検討を重ねた。また、パブリックコメントを実施したうえで、作成した計画案を議会に上程し、可決承認を得て、防府市教育振興基本計画を策定した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	4	3	3	3
	<p>庁内並びに外部委員による策定委員会を開催し、パブリックコメントも実施した。その意見等を取り入れながら、予定どおり平成26年3月に防府市教育振興基本計画を策定することができた。</p>					
平成25年度事業の課題・改善策	<p>予定どおり防府市教育振興基本計画を策定することができた。今後は事業実施について点検・評価を行い、その結果を見据えて次年度の事業に反映させる必要がある。</p>					

◎ 安全・安心な教育環境づくり

(1) 安全・安心な施設整備、環境の確保

事務事業	学校施設の耐震化														
事務事業概要	<p>1 耐震補強事業</p> <p>①耐震補強計画・実施設計の完了した6校6棟について、耐震補強工事を実施する。</p> <p>②耐震化推進計画に基づき、4校8棟の耐震補強計画・実施設計を行う。</p> <p>2 改築事業</p> <p>右田小学校及び桑山中学校の改築工事に着手し、西浦小学校の耐力度調査及び改築基本計画・実施設計を行う。</p>														
平成24年度事業の課題・改善策	<p>それぞれの工事を順調に進めていくには、学校関係者、地元の方々への十分な説明が必要となってくるものと思われる。</p> <p>また、耐震補強工事による耐震化については、平成27年度には完了できることとなったものの、改築による耐震化については、平成30年度としており、今後、できるだけ早い時期での完了を再検討する必要がある。</p>														
事務事業実績	<p>1 耐震補強事業</p> <p>①6校6棟の耐震補強工事を実施した。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>華浦小学校・・・校舎1棟</td> <td>新田小学校・・・校舎1棟</td> </tr> <tr> <td>中関小学校・・・校舎1棟</td> <td>大道小学校・・・校舎1棟</td> </tr> <tr> <td>華陽中学校・・・校舎1棟</td> <td>大道中学校・・・校舎1棟</td> </tr> </table> <p>②4校8棟の耐震補強計画・実施設計を実施した。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>富海小学校・・・校舎2棟</td> <td>向島小学校・・・校舎1棟</td> </tr> <tr> <td>玉祖小学校・・・校舎1棟</td> <td>佐波中学校・・・校舎2棟、昇降口2棟</td> </tr> </table> <p>2 改築事業</p> <p>右田小学校校舎改築については、基本設計・実施設計を完了した。また、建設予定地の文化財発掘調査も終了し、新校舎の建築主体工事に着手した。</p> <p>桑山中学校校舎改築についても、基本設計・実施設計を完了し、課外活動部室、PTA室等の解体、新校舎(B・C棟)の建築主体工事に着手した。</p> <p>西浦小学校校舎改築については、耐力度調査を終了し、基本設計・実施設計に着手した。</p>					華浦小学校・・・校舎1棟	新田小学校・・・校舎1棟	中関小学校・・・校舎1棟	大道小学校・・・校舎1棟	華陽中学校・・・校舎1棟	大道中学校・・・校舎1棟	富海小学校・・・校舎2棟	向島小学校・・・校舎1棟	玉祖小学校・・・校舎1棟	佐波中学校・・・校舎2棟、昇降口2棟
華浦小学校・・・校舎1棟	新田小学校・・・校舎1棟														
中関小学校・・・校舎1棟	大道小学校・・・校舎1棟														
華陽中学校・・・校舎1棟	大道中学校・・・校舎1棟														
富海小学校・・・校舎2棟	向島小学校・・・校舎1棟														
玉祖小学校・・・校舎1棟	佐波中学校・・・校舎2棟、昇降口2棟														
評価	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性										
	A	14	4	3	3	4									
	<p>耐震補強工事については、各種工法の変更等により工期延長となった工事もあったが、いずれも年度内に完了することができた。</p> <p>校舎改築工事については、右田小学校・桑山中学校ともに年度内に工事着手することができた。</p>														
平成25年度	校舎等構造体の耐震補強工事は平成27年度に完了予定であるが、屋内														

事業の課題 ・改善策	運動場の吊り天井等の非構造部材についても、国から新たに平成27年度までの耐震化完了を求められたため、同年度の完了を目指し工事等を進めていく必要がある。
---------------	---

事務事業	学校施設の整備					
事務事業概要	児童生徒の安全確保に向け、老朽化した施設の整備改善及び適性かつ迅速な維持管理を進める。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	学校施設は学習の場にふさわしい多様な機能を備え、安全・安心に過ごすことができるように整備されている必要があるが、現状は、老朽化、バリアフリー化、多様な学習環境等への対応など様々な課題を抱えている。 学校施設を健全な状態に保つために、現場の状況を把握し、緊急性が高いものなど優先順位をつけて事業を実施する必要があり、中長期的な整備計画等が必要である。					
事務事業実績	<p>小・中学校における安全安心な教育環境を確保するため、施設の老朽化に対する改修工事等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牟礼小学校屋内運動場防水改修工事 ・アスベスト除去工事 (牟礼南小学校、松崎小学校、西浦小学校、向島小学校) ・華浦小学校高圧受電設備改修工事 ・佐波中学校フェンス改修工事 ・バスケットコートライン変更工事(桑山中学校ほか7校) ・トイレ洋式化工事 (佐波小学校、中関小学校、牟礼中学校、華陽中学校) ・普通学級、特別支援学級への壁掛式扇風機設置(全小・中学校) 					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	11	2	3	3	3
評価	安全・安心な教育環境を確保するため、老朽化した施設に対する改修工事等を行った。 華浦小学校通級指導教室改修工事は、入札不調により、年度内に工事を行うことができなかった。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	教育水準の維持・向上を図るためには、教育環境を常に教育の場として好ましい状態に維持する必要があるが、各学校ともに築後の年数が経過していることから、今後も計画的に改修・整備を行う必要がある。					

学識経験者の意見	学校教育の質的ベースとして、「安全・安心」を支える施設・設備の充実は不可欠である。その点で、施設整備面の総合評価にBがあるものの、状況変化に対応して直面する課題に着実に対応していると言える。
----------	---

〔2〕 学校教育課

◎ 基本方針

学校教育を生涯学習の基礎としてとらえ、「豊かな人間性」と「確かな学力」、そして「健康・体力」を備えた児童生徒の育成をめざした教育を推進する。

◎ 学校教育の質の向上

(1) 心の教育の充実

事務事業	道徳教育の充実					
事務事業概要	「地域素材を生かした道徳教育の資料集」などの活用を促進し、道徳教育の充実を図る。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	「地域素材を生かした道徳資料」が、道徳の時間年間計画に確実に位置づけられるよう、指導の継続及び確認が必要である。 西浦小学校の道徳教育の研究の成果を市内へ波及させる必要がある。					
事務事業実績	平成20年度に各小・中学校において作成された「地域素材を生かした道徳教育の資料集」をはじめ、資料等を使っての道徳の授業を年間35時間以上確保するよう、指導徹底した。 牟礼小学校が「やまぐちっ子の心を育む道徳教育プロジェクト」推進校としての道徳教育の研究を実践的に進めている。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
評価	各校において、「地域素材を生かした道徳資料」が道徳の時間年間計画に位置づけられた。また資料等を使っての道徳の時間がほぼ全ての学校で年間35時間以上確保された。外部講師を招聘するなどして牟礼小学校の道徳教育研究が推進された。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	資料等を使っての道徳の時間を年間35時間以上確保するよう、指導の継続及び確認が必要である。 牟礼小学校の道徳教育の研究成果を市内へ波及させる必要がある。					

事務事業	人権教育の充実					
事務事業概要	小・中学校人権教育主任研修会の開催や実践事例を中心とした研究成果を防府市教職員研究紹介で周知するなど、人権教育の充実を図る。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	県や市主催の人権教育研修会への参加を積極的に呼びかける必要がある。 「山口県人権推進指針」「山口県人権教育推進資料」を各学校の人権教育					

	全体計画及び人権教育年間計画に反映させるよう積極的に呼びかけるとともに、県教委作成の「学習展開例」の活用を呼びかける必要がある。					
事務事業実績	<p>県や市主催の人権教育研修会へ積極的な参加を促した。</p> <p>防府市教職員研究紹介に、防府市内小・中学校での人権教育の取組事例や研究成果・課題等をまとめたものを掲載し、各小・中学校へ配布することができた。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	多くの教職員に対して、県や市の人権教育施策の浸透を図ることができた。各校における具体的な取組事例を掲載することで、他校の取組を参考に自校の人権教育の取組を検証・改善するための情報を提供することができた。					
平成25年度事業の課題・改善策	<p>県や市主催の人権教育研修会への参加を積極的に呼びかけた。</p> <p>「山口県人権推進指針」「山口県人権教育推進資料」を各学校の人権教育全体計画及び人権教育年間計画に反映させるよう徹底する必要がある。</p>					

事務事業	伝統や文化に関する教育の充実					
事務事業概要	防府市中学校文化連盟への支援や関係部署との連携による学校支援を行うことにより、伝統や文化に関する教育の充実を図る。					
平成24年度事業の課題・改善策	防府市中学校文化連盟への支援や関係部署との連携による学校支援を行うことにより、伝統や文化に関する教育の充実を図る。					
事務事業実績	防府市中学校文化連盟主催の総合文化祭等を支援した。また、小学校5校、中学校6校が学校で芸術鑑賞会を実施した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	防府市中学校文化連盟への支援を行うことで、防府市内の各中学校の文化活動を広く防府市民に紹介するとともに、各校文化活動の発表及び防府市内各中学校の文化活動を行っている生徒の交流の場をもつことができた。また、学校での芸術鑑賞会により、本物の芸術に触れる良い機会をもつことができた。					
平成25年度事業の課題・改善策	防府市中学校文化連盟への支援や関係部署との連携による学校支援を行うことにより、伝統や文化に関する教育の充実を図る。					

(2) 生徒指導の充実

事務事業	積極的な生徒指導の推進
------	--------------------

事務事業概要	小・中合同生徒指導主任研修会や小・中合同教育相談担当者研修会などの開催により、緻密な情報連携に基づいた生徒指導体制づくりに努める。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	昨年度から児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題が増加傾向にあり、今まで以上に小中連携による生徒指導の推進やスクールカウンセラーやスクール・ソーシャルワーカーの積極的な活用が求められる。					
事務事業実績	生徒指導主任研修会、教育相談担当者研修会を開催し、生徒指導における指導方針の明確化や共通理解を図り、いじめや暴力行為などの早期発見、早期対応のための情報提供により、各学校の組織的な生徒指導体制づくりを行った。また、生徒指導総合研修会の開催により、学校の現状を地域の関係機関の方に周知することにより、地域との連携も含めた生徒指導体制の構築を図った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
評価	生徒指導主任や教育相談担当者に対して、具体的な事例を示すことによってスクールカウンセラーやスクール・ソーシャルワーカーの活用について周知することができた。そのため、いじめや暴力行為、不登校などの未然防止、早期発見・早期対応のための積極的な取組が多くみられるようになった。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	児童生徒の問題行動は依然増加する傾向にあり、関係機関との今まで以上の連携が必要になってくる。小中連携や保護者、地域を取り込んだ生徒指導体制の構築が求められる。					

事務事業	学校内外と連携した問題行動への対応					
事務事業概要	サポートチーム等、関係機関との情報・行動連携の強化を図り、生徒指導上の諸問題に迅速・適確に対応する。また、生活・安心相談員による訪問支援を行う。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	児童生徒の発達障害や虐待などの養育問題が増加傾向にあり、各学校における問題が複雑化し、課題解決に向けより一層関係機関との連携が必要になっている。そのなかで、臨床心理士やスクール・ソーシャルワーカーの役割が重要であり、増員による充実した相談・支援体制の構築を図る必要がある。					
事務事業実績	不登校やいじめの問題、暴力行為、虐待などの養育問題等、生徒指導に係る諸問題についての解決策等を協議するとともに、状況に応じて関係機関の連携による適切な対応を図るために、「防府市生徒指導問題対策協議会」を設置し、問題行動への対応方法及び防止のための活動を行った。個別の事案に対しては、児童生徒の状況に応じ、学校、教育委員会及び関係機関が連携して対応する「緊急サポートチーム」を編成して対応した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3

	必要に応じてサポートチーム会議を開催することで、不登校やいじめ、暴力行為や児童虐待などの諸問題の未然防止や早期対応が図られた。また、臨床心理士やスクール・ソーシャルワーカーの介入により、改善に向かうケースも見られた。
平成25年度 事業の課題 ・改善策	保護者の教育に対する姿勢や養育について課題を抱えた家庭が増えつつあり、学校における対応に苦慮するケースが多い。今まで以上に関係機関と連携し早期対応する必要がある。また、スクール・ソーシャルワーカーのニーズが高まり、増員が求められる。

事務事業	きめ細かな不登校対策の推進					
事務事業概要	教育支援センター「オアシス教室」専任指導員及び在宅生徒学習指導員ならびに、生活・安心相談員が各学校の不登校対策の支援を行う。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	生活・安心相談員の巡回相談の回数を増加したり、教育支援センター「オアシス教室」を勧めたりすることで、不登校児童生徒に対してより一層きめ細かな支援体制の充実が求められる。					
事務事業実績	専任指導員を市の非常勤職員として3名雇用し、不登校児童生徒に対しての指導を行った。また、不登校やいじめ等の学校教育に関する相談が増加傾向にあり、電話相談だけでなく、学校への助言や家庭への支援も含めた生活相談員を1名配置して、課題の発見・解消および予防をめざし、きめ細かな対応を行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
評価	様々な要因を抱える不登校児童生徒にとって、学力の保障、人間関係の再構築等、学校復帰を目的とした本事業の担っている意義は非常に大きい。通室児童生徒も増加しており、更なる教育支援センターの機能の拡充が望まれる。生活・安心相談員による学校への助言や家庭への支援は効果が見られた。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	生活相談員や教育支援センター「オアシス教室」への相談電話や学校訪問回数が増え、様々なケースに対して丁寧に対応しているが、不登校児童生徒数は増加傾向にあり、今後も益々不登校児童生徒に対してより一層きめ細かな支援体制の充実が求められる。					

(3)キャリア教育の推進

事務事業	キャリア教育の視点に立った進路指導の充実
事務事業概要	キャリア教育全体計画に基づき、職場見学や職場体験学習を、児童生徒の発達段階に応じて組織的・計画的に実施することによって勤労観・職業観の育成を図る。
平成24年度	キャリア教育全体計画による実践から、問題点等の見直しを図るとともに、

事業の課題 ・改善策	積極的な職場見学や職場体験学習等体験学習の推進が必要である。					
事務事業実績	校種、児童生徒の発達段階や各学校の実態・特色ある教育活動等に応じて、全ての学校において、キャリア教育全体計画の見直しと修正がなされた。実践集を作成したことで、各校のキャリア教育モデルが整理された。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	市内全ての小中学校で、キャリア教育全体計画をもとに、組織的・計画的に勤労観・職業観の育成が図られた。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	キャリア教育全体計画による実践から、問題点等を見直しを図るとともに、積極的な職場見学や職場体験学習等体験学習を充実させていくことが必要である。					

事務事業	実践的・体験的な学習活動の推進					
事務事業概要	商工会議所・職場体験学習受入事業所等との連携協力体制を構築し、社会見学・職場体験学習・福祉体験学習等の充実を図る。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	勤労観や職業観のさらなる育成に向けて、老人ホームや介護施設における福祉体験学習等への積極的な参加を呼びかける。					
事務事業実績	市内の小中学校2校と中学校10校の計12校、1,143名が職場体験を実施した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	勤労観や職業観の育成の一環として、防府市内の中学校は全て2年時に職場体験学習を実施しており、小学校においても近年職場体験学習に取り組むようになってきた。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	勤労観や職業観のさらなる育成に向けて、商工会議所の協力も得ながら、市内の各事業所における職業体験学習の充実を図る。					

事務事業	小・中学校の連携及び家庭・地域との連携強化				
事務事業概要	コミュニティ・スクール事業を推進することにより、保護者や地域の人材を有効に活用した学習活動を推進する。				
平成24年度 事業の課題 ・改善策	学校・家庭・地域の三者の連携をより強固なものにするために、地域連携担当者と学校運営協議会委員、公民館関係者の研修の機会を増やす必要がある。さらに、コミュニティ・スクールの取組を進めるために、各学校の実情に応じて、地域から学校への支援を積極的に取り入れる。				

事務事業実績	平成25年度には、地域連携担当者会議(学校教職員・学校運営協議会委員・公民館関係者を対象とした研修会)で、コミュニティ・スクールの意義や地域連携のあり方についての協議を重ねた。また、これに各校の校長を加えた学校運営協議会連絡協議会を新たに立ち上げ、おおむね中学校区で子どもの育ちを見守るための協議も進めてきた。学校・家庭・地域の三者の連携方法について見識を深めることによって、「開かれた学校づくり」を推進している。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	数々の研修会等を通して、学校関係者や保護者には、コミュニティ・スクールについての理解が進み、学校支援ボランティア等、地域の方々による学校への支援体制が整ってきた。更に、概ね中学校区で児童生徒の15歳までの育ちや学びを見守る「地域協育ネット」の仕組みを取り入れることで、学校・家庭・地域の三者の連携が強化された。					
平成25年度事業の課題・改善策	学校運営協議会委員が学校関係者評価委員となっていることから、学校運営協議会の機能を高め、学校改善につなげるためにも、学校評価に関する研究を進めていく必要がある。					

(4) 学習指導の充実

事務事業	児童生徒の実態に応じた指導計画の作成					
事務事業概要	全国学力・学習状況調査や標準学力検査、知能検査などの結果分析に基づき、学力向上プランの改善を図り、学力向上に努める。					
平成24年度事業の課題・改善策	全国学力・学習状況調査や標準学力検査については、誤答分析等、より細かな結果分析を行い、授業改善につなげていくことが大切である。また、学習規律や家庭学習の充実についても協議していく必要がある。					
事務事業実績	4月に小学校第6学年、中学校第3学年を対象に全国学力・学習状況調査を実施した。10月末に小学校第3学年～第6学年、中学校第1・2学年を対象に学力定着状況確認問題を実施した。1月下旬に小学校第3～5学年、中学校第1・2学年において標準学力検査を実施した。知能検査については、小学校第2・5学年において実施した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	研修主任研修会や学力向上担当者研修会において、学力・学習状況調査の結果を受けて課題解決のための取組について協議し、各学校の学力向上プランの改善を図ることができた。					
平成25年度事業の課題・改善策	各校がより組織的・計画的に授業改善と学力向上に向けた取組を推進していけるよう、各種調査・検査実施後の分析をもとにした課題の明確化をより一層充実させていく必要がある。個に着目した分析や経年分析をもとにした					

	学力向上プランの改善を図っていくことが求められる。
--	---------------------------

事務事業	指導体制の充実及び指導方法の工夫改善					
事務事業概要	少人数指導等によるきめ細かな指導体制及び授業技術・指導方法の向上を目指した授業研究や授業評価の研修の充実を図る。					
平成24年度事業の課題・改善策	学校としての組織的な研修体制を構築するために、研修主任の適切なリーダーシップと管理職との連携について意識を高める必要がある。研修主任研修会において学習指導案の読み方や授業分析の仕方等、具体的な講義や演習を実施したい。					
事務事業実績	研修主任研修会において、研究協議会の運営の工夫や児童生徒による授業評価の組織的取組の必要性について説明し、協議を行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	研修主任研修会において、校内研修での指導案検討会や授業検討会の持ち方について演習をしたり、協議をしたりすることにより、指導案の読み込み方や授業中の子どもの見取り方について改善を図ることができた。					
平成25年度事業の課題・改善策	授業を内容面と方法面の両方から改善していくには、授業づくりの土台となる指導案作成とその検討、そして、授業実施後の授業検討を充実させていくことが不可欠である。具体的な授業場面をもとに協議をしたり、演習をしたりすることで、日々の授業への還元を図ることのできる内容にしていきたい。					

事務事業	総合的な学習の時間や読書活動の充実					
事務事業概要	総合的な学習の時間等では教科の学習で身につけた知識や技能を活用する探求活動の場を工夫する。また、学校図書館司書を配置し、学校における読書活動を推進する。					
平成24年度事業の課題・改善策	学校図書館司書の巡回により、連携を強化し、読書の質の向上をめざす。学校図書館管理システムの導入に向けての諸整備を行う。					
事務事業実績	学校図書館司書を市内全小学校に派遣し、児童への学校図書館の利用指導、読書指導、読み聞かせ、新刊図書の紹介等掲示物の作成、図書便りの発行、貸し出し、返却指導等を行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 3	3	3	3	4
	学校図書館司書が訪問時に本の紹介や読み聞かせを積極的に行ったり、図書館内の環境整備を行ったりしたことで、学校図書館を利用する児童数、貸出冊数が増加した。					
平成25年度	学校図書館司書の巡回により、連携を強化し、読書の質の向上をめざす。					

事業の課題 ・改善策	学校図書館管理システムの導入に向けての諸整備を行う。また、学校図書館司書の研修の充実を図る。
---------------	--

(5)特別支援教育の充実

事務事業	支援体制の充実					
事務事業概要	学校支援員の配置や幼児通級指導教室など、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する校内支援体制の充実を図る。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	各学校の実態を把握し、学校・学級が落ち着いて学習できる場を提供する。そのために、学校支援員の大幅な増員を図る。また、幼児通級指導教室についても、教室での個々の学びが充実するように教室環境及び教材の充実を図る。					
事務事業実績	<p>小学校に49名、中学校1名の学校支援員を配置し、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する学習支援、健康や安全の確保、運動会や校外活動等の学校行事における支援を行った。</p> <p>また、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する理解を促進するとともに、支援の技能を向上させるため、学校支援員研修会を開催した。</p> <p>幼児通級指導教室について、佐波小学校幼児部51名、華浦小学校幼児部33名を指導した。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
評価	<p>配置された学校支援員は、学校・学級の安定化に大きく寄与している。特別な教育的支援を必要とする児童生徒の数や実態から、支援員の確保が強く望まれている。</p> <p>それぞれの幼児通級指導教室での個別指導により、個々の児童の状況が好転している。また、保護者との連携がより高まっている。</p>					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	各学校の実態を把握し、学校・学級が落ち着いて学習できる場を提供する。そのために教育的支援の必要な児童生徒にきめ細かな対応ができるよう学校支援員を配置する。また、幼児通級指導教室についても、教室での個々の学びが充実するように教室環境及び教材の充実を図る。					

事務事業	指導方法の工夫改善
事務事業概要	幼保・小・中学校の相互連携により特別な教育的支援を必要とする児童生徒への理解を深め、児童生徒の個に応じた指導方法の工夫・改善を図る。
平成24年度 事業の課題 ・改善策	児童生徒の情報交換がより円滑に行えるような環境整備を行う。また、コミュニティ・スクールの指定により、より連携が深まるような工夫を考え実践する。
事務事業実績	年1回、幼稚園や保育園(所)の職員と小学校1年生担任等が協議できる幼保・小連携教育研修会を実施した。また、職員同士の連絡会や授業参観、

	<p>子ども同士の交流が各小学校単位で年間を通じて1回以上実施された。</p> <p>小・中学校においても、生徒指導主任会でともに協議を行ったり、各中学校区単位で年間1回は連携を目的とした合同研修会を実施したりした。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	<p>連携研修会により、幼保・小のつながりを互いの立場から見直すことができた。また連絡会等が年間1回は必ず実施されることにより、互いの指導方法の良さを知ることができた。</p> <p>特別な教育的支援を必要とする児について、研修会やお互いの授業参観等の機会により情報の共有ができた。</p> <p>小・中学校の生徒指導上の課題を共有したり互いの校種の特性に応じて効果的な方法を取り入れた指導を行ったりすることができた。</p>					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	<p>県「つながる子どもの育ち」をもとに各小学校及び各幼稚園・保育園(所)でのスタートカリキュラムやアプローチカリキュラムを充実させる必要がある。</p> <p>小中連携研修会での共通理解を踏まえた指導を組織的に行うよう、指導する必要がある。</p> <p>幼稚園・保育園(所)等にも「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成の必要性等について研修会等の機会を活用し、周知を図る。</p>					

事務事業	関係機関との連携による適正な就学指導の実施					
事務事業概要	就学相談のために園や学校への巡回訪問を実施するとともに、防府市就学指導委員会を開催し、適正な就学指導を推進する。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	関係機関との連携による就学指導体制の充実を図り、適正な就学指導を推進する。					
事務事業実績	障害のある児童生徒、また、障害の可能性のある児童生徒に対して、適正な教育措置を講ずるために、市内の特別支援学級設置校の校長、担任教員などを委員とする防府市就学指導委員会を設置し、必要となる調査・検査・診断に基づいた適正な就学指導を行った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	<p>就学先の決定は、教育委員会の責任で行なわれるべきものであり、障害のある児童生徒の就学に関しては、就学指導委員会において、専門的な立場から障害の種類、程度等を勘案して適正な協議・判断がなされた。</p>					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	関係機関との連携による就学指導体制の充実を図り、教育的支援の必要な児童生徒にふさわしい支援を行う。					

(6) 社会の変化に対応した教育の推進

事務事業	コミュニケーション能力を育む教育の推進					
事務事業概要	小・中学校へALTを派遣し、外国語に慣れ親しむことで、コミュニケーション能力の素地や基礎を養う。					
平成24年度事業の課題・改善策	外国語活動教材“Hi, friends!”の更なる活用とともに、外国語指導助手の指導補助のあり方について検討する必要がある。					
事務事業実績	6名の外国語指導助手を雇用し、小学校5・6学年および中学校全学年への外国語活動及び中学校全学年への指導補助、LESSンプラン作成等の教材研究補助を行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	外国語指導助手の派遣により、言語や文化に対して体験的に理解すること、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみを図ることができた。					
平成25年度事業の課題・改善策	外国語指導助手を活用しての小学校外国語活動・中学校英語科の学習の更なる充実を図る。富海小・中学校への派遣回数を拡充し、外国語活動・英語教育についての研究開発を促進する。					

事務事業	情報教育の充実					
事務事業概要	情報収集・活用・発信に関する基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。					
平成24年度事業の課題・改善策	市内全学校のコミュニティ・スクール指定を受けて、ホームページ作成や管理に関する研修会を継続実施していきたい。あわせて、高度情報化社会に対応した情報モラルにかかわる研修を充実させる必要がある。					
事務事業実績	やまぐち総合教育支援センターから情報教育担当の研究指導主事を講師に招いて、タブレット端末の活用について情報教育研修会を開催した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	授業でのICTの活用について、実効的な研修になり、各校に意義ある情報を提供することができた。					
平成25年度事業の課題・改善策	今後も授業や校務でのICTの活用については、実効的な研修会の実施が望まれる。あわせて、高度情報化社会に対応した情報モラルにかかわる研修を充実させる必要がある。					

事務事業	環境教育の充実					
------	---------	--	--	--	--	--

事務事業概要	「子ども環境白書～防府版～」を活用し、環境保全やよりよい環境の創造のために、主体的に行動する実践的な態度、能力等を育成する。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	児童生徒が主体的に環境問題に関わろうとする態度と意識の高揚に向けて、学校の実情に応じた具体的な体験活動の場を増やすため、総合的な学習の時間や各教科の枠を越えた教育課程への位置づけがさらに必要である。					
事務事業実績	地球温暖化問題の主要因である二酸化炭素の排出量削減を身近な生活の中で実践するなど、子どもたちの環境意識の醸成を図った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	1 1	2	3	3	3
	市内の2小・中学校が平成24年度「やまぐちエコリーダースクール」に認証された。全校体制での環境教育への取組が認められる機会となっている。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	児童生徒が主体的に環境問題に関わろうとする態度と意識の高揚に向けて、学校や地域の実情に応じた具体的な体験活動の場を増やすため、総合的な学習の時間や各教科の枠を越えた教育課程への位置づけがさらに必要である。地域人材の教育活動への参加も視野に入れたい。					

(7)健康教育の推進

事務事業	食に関する指導の充実
事務事業概要	地場産物を活用し、地域に根ざした食育を推進するとともに、食に関する研修会などへの参加促進を図る。
平成24年度 事業の課題 ・改善策	<p>地場産物の活用については、県農林事務所、JA、青果市場などとの連携を強化し、より一層地場産食材の利用率の向上を図る。</p> <p>PEN食器への更新は、未更新校から強い要望があり、食育指導の観点からも早期実現に向けて予算要求を行う。</p> <p>今後の給食のあり方については、平成26年度右田小学校の給食調理等一部業務委託実施後に検討する。</p> <p>栄養教諭等へ、食に関する具体的な指導の研修の機会を提供し、より一層栄養教諭等の資質向上を図る。</p>
事務事業実績	<p>給食物資については、JA等と連携を図り地場産食材を活用し、郷土料理・季節毎の行事食などを献立に取り入れた。また、毎月、食に関する指導などを掲載した給食だよりを保護者へ配付し、食育の推進を図った。</p> <p>また、栄養教諭など学校給食に携わる職員は、県、市主催の研修会に積極的に参加し、望ましい食生活のあり方などについて児童生徒へ指導した。</p> <p>佐波小学校、牟礼南小学校、西浦小学校、玉祖小学校、大道小学校の給食食器をPEN食器に更新し、枚数も碗2枚と皿1枚の計3枚とした。</p> <p>給食調理等一部業務委託については、玉祖小学校を開始し、9小学校と1共同調理場の委託実施となった。</p> <p>平成26年度から実施予定の右田小学校についても、保護者・教職員等に</p>

	対する理解啓発などを行い、新学期からの稼働準備を進めた。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	<p>地場産食材については、JA等の情報を各学校と共有し、本市全体で利用率の向上を図った結果、利用率は徐々に上がってきた。学校における食育指導及び環境整備も計画的に進められている。</p> <p>アレルギー対応についての研修会等、学校給食に関する研修等に積極的に参加し、児童生徒への指導の充実を図ることができた。</p> <p>新規の委託実施校についても、給食協議会、児童・保護者等に実施したアンケート結果などから、実施後も安全・安心でおいしい給食の提供ができています。</p>					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	<p>栄養教諭の訪問指導を充実させたり、食育担当者の研修会をしたりして食育の充実を図る必要がある。</p> <p>PEN食器への更新が済んでいない小学校4校について早期の対応を目指す。</p> <p>給食調理等一部業務委託を計画的に進める。</p>					

事務事業	体力向上のための望ましい運動習慣の定着					
事務事業概要	体力テストの分析結果に基づき、体力向上プランの改善を図り、児童生徒の体力向上に努める。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	体力向上プランによる1校1取組や、地域人材の活用による外部指導者の派遣等により、児童生徒が運動の楽しさを実感し、進んで運動に取り組めるよう、学校・家庭・地域が一体となり取り組む必要がある。					
事務事業実績	児童生徒の体力に関する課題把握及び解決に向けて、全ての小・中学校で新体力テストを実施し、1校1取組に取り組むことができた。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	<p>児童生徒の体力向上の成果について、即効性を求めることはできない。体力向上という目的を達成するためには、各校の継続的な取組が必要であるが、課題が明確となり解決策がとられていることは、一定の評価ができる。</p>					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	体力向上プログラムにより防府市内小・中学校の課題解決のために今まで以上に体力向上に向けての取組が求められる。特に、体育・保健体育授業の改善や、体力テストの実施時期の見直し等、積極的に進める必要がある。					

事務事業	健康な生活を送ろうとする実践力を育てる指導の充実				
事務事業概要	地域の専門家派遣事業の活用などにより、家庭・地域・関係機関との連携を強化し、指導の充実を図る。				

平成24年度 事業の課題 ・改善策	全小・中学校で、薬物乱用防止教室を実施した。新たに中学校の指導要領に加わった薬教育にも取り組んでいく必要がある。					
事務事業実績	全小・中学校で、薬物乱用防止教室を実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	薬物乱用防止教室の実施により、健康な生活を送ろうとする自己管理能力を高めることができた。また、健康教育の推進において中心的な役割を担う保健主任の意識向上を図ることができた。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	薬物乱用防止教育の実施を継続する。また、体育科・保健体育科の保健領域の学習の充実を図る必要がある。					

(8)安全教育の推進

事務事業	児童生徒の自己管理能力と危機予測・回避能力の向上					
事務事業概要	警察と連携した交通安全教室や火災・自然災害・不審者想定訓練など、学校安全計画に基づいた安全指導を推進する。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	スクールガードリーダーの指導を生かし、各学校での日常の取組を充実させ、さらに児童生徒の自己管理能力と危機管理能力を向上させていくことが課題である。					
事務事業実績	<p>県警による交通移動教室を小学校3校中学校2校、防府警察署との連携による交通教室を小学校12校で実施した。</p> <p>警察と連携して少年安全サポーターを配置し、巡回訪問や要請があった場合に学校を訪問するなど、学校安全体制の整備を支援した。</p> <p>また、学校への不審者の侵入や登下校時において不審者に遭遇した場合の安全確保のため、各小・中学校で実施している不審者対応訓練に少年安全サポーターとスクールガードリーダーが参加し、指導助言を行った。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	<p>学校による独自の交通教室を含め、新入学児対象の交通教室を警察との連携のもと実施することができ、就学に向けて交通安全の指導の充実を図ることができた。</p> <p>少年安全サポーターは、学校安全体制に大きく寄与している。不審者などの情報への対応も迅速かつ確実であり、日々の小・中学校の安全体制を積極的に支援できた。</p> <p>各小・中学校で実施されている不審者対応訓練においても、これまでの経験と専門性を生かした指導助言で大きな成果をあげた。</p>					
平成25年度	不審者等が増加傾向にあり、各学校での日常の取組を充実させ、さらに児					

事業の課題 ・改善策	<p>児童の自己管理能力と危機管理能力を向上させていくことが課題である。</p> <p>そのために、少年安全サポーターの増員を検討している。</p>
---------------	--

事務事業	機能する危機管理体制の確立					
事務事業概要	各種安全教育研修会への参加促進など、教職員の危機管理能力の向上を図るとともに防府市メールサービスの活用促進等により危機管理体制の確立を図る。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	交通安全やそれぞれの災害を想定した防災危機管理研修会への参加等、様々な安全教育研修会への参加を継続的に促進していく必要がある。 防府市メールサービスの有効な活用が求められる。					
事務事業実績	<p>教職員に対し、県主催の自転車指導研修会や防府市防災危機管理課主催の土砂災害危機管理研修会等、各種安全教育研修会で研修させることができた。</p> <p>防府市内全ての小・中学校で学校から保護者への携帯メールによる情報配信システムが整備された。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	各種安全教育研修の場を提供することができた。 学校から保護者への携帯メールによる情報配信システムが整備されたことで、緊急時への対応体制が整備できた。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	防犯研修会やそれぞれの災害を想定した防災危機管理研修会への参加等、様々な安全教育研修会への参加を継続的に促進していく必要がある。 不審者や熊の出没情報等、緊急時の管理職への迅速な連絡体制の構築のため、防府市メールサービスの有効な活用が求められる。					

事務事業	地域・家庭と連携した学校安全体制の整備					
事務事業概要	地域の関係団体や保護者との連携の強化による見守り活動等の充実や各地域におけるスクールガード組織の運営への積極的な支援を図る。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	今後、さらに地域の関係団体や保護者との具体的かつ継続的な連携が求められる。					
事務事業実績	各校のスクールガード組織の再構築、及び見守り隊との緊急連絡体制の確認を行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	地域のスクールガードが主体的に見守り活動に取り組み、子どもたちの安全な登下校が確保された。					

平成25年度 事業の課題 ・改善策	今後も、継続的な地域の関係団体や保護者との連携による、学校安全体制のより一層の整備が求められる。
-------------------------	--

学識経験者 の意見	心身の成長・発達課題に対しての、専門性の活用や連携による実践・研究発展につながる活動の前進状況が、24事業中総合評価A23個の実績として見て取ることができる。なお、B評価が付された「環境教育」については、改善策コメントの指摘どおり教育課程上の位置づけとしての総合性と具体性の統一をどう図るかの検討が必要であろう。
--------------	--

〔3〕生涯学習課

◎ 基本方針

地域活動に有効かつ機能的な体制づくりを行うとともに、市民・民間・行政が共同し一体となった社会教育活動の推進を図る。

◎魅力ある教育施設の整備と有効活用

(1) 公民館施設の充実

事務事業	公民館の整備					
事務事業概要	<p>緊急度の高いところから外装・内装修繕工事を実施しており、当面の整備は終えているが、引き続き計画的に整備を進めていく。</p> <p>1 中関老人研修センター屋根天井張替工事 2 新田公民館フェンス工事</p>					
平成24年度事業の課題・改善策	緊急度の高いところから、引き続き整備を進めていく。					
事務事業実績	<p>中関老人研修センター屋根天井張替工事(H26.1)、新田公民館フェンス工事(H26.3)を実施した。</p> <p>経年劣化による施設・設備の修繕を15公民館において実施した。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	各公民館の補修、改修はおおむね実施できた。					
平成25年度事業の課題・改善策	緊急度の高いところから、引き続き整備を進めていく。					

(2) 公会堂、文化福社会館の改修、整備

事務事業	公会堂、文化福社会館の改修、整備
事務事業概要	<p>公会堂、文化福社会館の耐震化を含めた将来構想について市長部局と調整を図りながら検討する。</p> <p>1 公会堂ホール天井調査業務委託 2 文化福社会館トイレ排水管取替工事</p>

平成24年度 事業の課題 ・改善策	定期的な施設の整備が必要である。 公会堂、文化福祉会館の耐震化を含めた将来構想について市長部局と調整を図りながら検討する。					
事務事業実績	公会堂ホール天井調査業務委託(H25.12)を実施した。 文化福祉会館トイレ排水管取替工事(H26.2)を実施した。 経年劣化による施設・設備の修繕を実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	計画どおり、公会堂、文化福祉会館の改修、整備を実施することができ、市民や出演者が安全に施設を利用できるようになった。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	定期的な施設の整備が必要である。 公会堂、文化福祉会館の耐震化を含めた将来構想について市長部局と調整を図りながら検討する。					

(3)教育集会所の有効活用

事務事業	教育集会所の有効活用					
事務事業概要	市内3箇所(大日、北山手、右田)にある教育集会所において、人権に関する理解を深めるための社会教育活動を推進し、地域住民の文化及び福祉の増進を図る。また、施設の改修整備を行う。 1 大日会館、北山手会館トイレ洋式化改修工事					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	受講者の増を図るとともに、講座の内容について検討することも必要な時期に来ている。					
事務事業実績	大日会館では、華道、編物、珠算を、北山手会館では、習字(大人、子ども)、珠算の講座を実施した。また、右田福祉センターでは、編物(午前、午後)、和裁、華道を、牟礼福祉センターと宮市福祉センターでは、手話の講座を実施した。大日会館、北山手会館に男女各1基の洋式トイレを設置した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	1 1	3	2	3	3
	大日会館のペン習字、北山手会館の華道の講座を除き、他の講座は実施することができたが、予定していた受講者数の確保ができなかった。また、大日会館、北山手会館のトイレ洋式化は計画どおり実施でき、施設利用者の利便性を確保することができた。					
平成25年度 事業の課題	地域ニーズの把握と講座の内容を検討し、受講者の増加を図る。					

・ 改善策

◎一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

(1)生涯学習、社会教育及び青少年健全育成の推進

事務事業	生涯学習及び社会教育の推進
事務事業概要	<p>1 市民自らが主体的に行なう生涯学習をより促進するため、第二次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン2）に基づく諸施策を実践する。</p> <p>(1) 各年齢期に応じた子育て講座やボランティア養成講座など具体的な事業に取り組み、家庭教育力の向上と地域教育力の活性化を目指す。</p> <p>(2) 近隣の大学・短大等との連携協働により、生涯学習を推進する。また、山口大学地域連携推進センターと教育委員会の連携協働に関する協定に基づく諸施策を推進する。</p> <p>(3) 市民の自主的・主体的な活動の発表の場である「生涯学習フェスティバル」の充実を図る。</p> <p>(4) 生涯学習相談コーナーの充実を図り、市民自らが行う生涯学習の支援や啓発に努める。</p> <p>2 社会教育委員及び社会教育関係団体への活動支援や研修の充実を図り、より一層の社会教育の推進に努める。</p>
平成24年度事業の課題・改善策	<p>「第二次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン2）」に基づき、「豊かな学びでつながる人と地域が元気なまち防府」を基本理念とした3つの基本目標の実現を図るため、主要施策での諸事業の具体的な実践を進め、各施策に沿った取組みの検証を行うことにより、効果的に施策を推進していく必要がある。</p>
事務事業実績	<p>1 第二次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン2）に基づき、次の諸事業を実施した。</p> <p>(1) 各年齢期に応じた子育て講座やボランティア養成講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学期子育て講座（16小学校各1回、1,048人） ・思春期子育て講座（12中学校各1回、2,855人） ・生涯学習ボランティア養成講座（3回、55人） <p>(2) 近隣の大学・短大等との連携、山口大学地域連携推進センターと教育委員会との連携協働に関する協定に基づく諸施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口大学地域連携推進センターとの協定に基づき、生涯学習アドバイザー（長畑教授）の講演等や、生涯学習アドバイザー会議を実施した。 ・山口大学公開講座の実施（1講座2日間、延べ41人） <p>(3) 生涯学習フェスティバルの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年2月23日にルルサス防府、アスピラートを会場に生涯学習フェスティバルを開催し、延べ4,266名の参加があった。

	<p>・市民による実行委員会を立ち上げ、実行委員会を7回行った。</p> <p>・（公財）防府市文化振興財団及びフェスタ・アスピラート2014実行委員会主催のフェスタ・アスピラート2014と同時開催した。</p> <p>(4) 生涯学習相談コーナーの充実、生涯学習指導者バンク登録者による公開講座の開催</p> <p>生涯学習相談コーナーに生涯学習専門員を配置し、生涯学習相談に応じるとともに、生涯学習指導者バンクの活用を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習指導者バンク利用件数：70件 ・聞いて得するふるさと講座利用件数：60件 ・学ぼうやセミナー：夏季参加者数423人、春季参加者数335人 ・わくわく学び塾の開催（4回、64人） ・ボランティア協働情報紙「まなぼらさぽーと」の発行（年6回） ・子ども向け生涯学習情報紙「まなぼうやだより」の発行（年3回） <p>※ 生涯学習指導者バンク～生涯学習に関する豊富な知識や経験、技能のある個人及び団体を指導者として登録していただき、自発的な学習活動を行おうとする市民（5人以上のグループ）に対して学習機会を提供する制度</p> <p>登録状況 個人99、団体47</p> <p>※ 学ぼうやセミナー、わくわく学び塾～生涯学習指導者バンク登録者による公開講座</p> <p>2 社会教育の推進</p> <p>(1) 社会教育委員（17名）の会議</p> <p>社会教育委員の会議（本会議2回・専門部会3回）及び研修会を2回開催し、調査・研究を行い、「防府市における学校・家庭・地域の連携・協働の具体的方策」を研究テーマとして、協議・検討を行い、報告書を作成した。</p> <p>(2) 社会教育関係団体への活動支援</p> <p>小・中学校PTA連合会や防府ユネスコ協会などの社会教育関係団体に対して助成を行い、社会教育活動の支援を行った。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3

	防府市生涯学習推進協議会において、生涯学習の関連施策の推進に関する事業計画を策定し、諸事業を実施し、「いつでも、どこでも、誰でも、学びたいことが学べる生涯学習社会」の実現に向けての取り組みができた。
平成25年度 事業の課題 ・改善策	「第二次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン2）」の各施策・計画の進捗管理及び実施状況の点検・評価の結果を今後の取組へ反映し、計画の充実・発展を図る。

事務事業	青少年健全育成の推進
事務事業概要	<p>1 防府市青少年育成市民会議を主軸に、青少年関係諸団体の相互の連携を強化し、青少年に関わる諸事業（「家庭の日」運動等）を通じて、全市的な青少年健全育成の推進を図る。</p> <p>2 防府市青少年育成センターと関係機関・諸団体との連携を強化し、補導・相談活動及び環境浄化活動を行い、青少年の健全な保護育成に努める。</p>
平成24年度 事業の課題 ・改善策	<p>青少年が携帯電話による事件やトラブルに巻き込まれる事案が跡を絶たないため、関係機関・団体との連携を強化し、被害に遭わないよう諸事業に取り組んでいく。</p> <p>防府市青少年育成センターや青少年補導員による青少年の補導人数はここ数年横ばい傾向にあるが、引き続き関係機関・団体と連携を強化し、補導活動の充実を図る。</p> <p>また、相談件数は減少したが、青少年や保護者に対し相談活動の周知を継続して行い、引き続き青少年の保護育成を図っていく。</p>
事務事業実績	<p>1 青少年の健全な育成を図るため、次に掲げる事業を、防府市青少年育成市民会議において実施した。</p> <p>（1）第6回「社会を明るくする運動」「青少年の非行・被害防止運動」スピーチコンテストを実施した。</p> <p>とき 7月27日（土）</p> <p>ところ デザインプラザHOFU</p> <p>発表者 防府市内の中学生（各学校からの代表者）11名</p> <p>来場者数 305名</p> <p>7月の「青少年の非行・被害防止全国強調月間」（内閣府主唱）及び「“社会を明るくする運動”強調月間」（法務省主唱）の啓発事業として実施した。</p> <p>（2）「家庭の日」運動の推進のため、啓発用品を作製し配布した。</p> <p>チラシ 20,000枚</p> <p>ポスター 140枚</p> <p>のぼり旗 120枚</p> <p>ポケットティッシュ 1,000個</p> <p>その他啓発活動</p>

	<p>毎月1日号の市広報に「家庭の日」を掲載 広報誌「はばたき」（年2回発行）に掲載 生涯学習フェスティバルにおいて、「家庭の日」コーナー を設置して啓発活動を実施</p> <p>(3) 「家庭の日」運動推進地区活動支援事業を実施した。</p> <p>(4) 防府市青少年健全育成アンケートの実施 防府市青少年育成市民会議において、小・中学校の児童生徒及びその保護者、地域の大人を対象に家庭生活や地域とのつながり等について意識・要望を問うアンケート調査を実施した。</p> <p>(5) 日本ジャンボリー防府地域プログラムの開催において、防府スカウト協議会の活動を支援した。</p> <p>◎防府市の地域プログラム (8/5) 歓迎行事や企業や施設での見学・体験・奉仕活動・学校訪問などのプログラムを実施し、地域や児童生徒との交流を図った。 国内外からの訪問スカウト184名</p> <p>2 防府市青少年育成センターにおいて補導・相談活動を実施し、青少年の健全な保護育成に努めた。</p> <p>(1) 街頭巡視活動 青少年の非行防止のための補導活動を実施するため、150名の補導員を委嘱した。 青少年育成センター指導員、所員による巡視活動や、防府警察署との合同巡視、各地区補導員による巡視・補導活動を延べ536回実施し、延べ2,215名が参加、122名を補導した。</p> <p>(2) 相談活動 青少年相談活動については、青少年育成センターに設置している「ヤングテレホン防府」による電話相談や来所相談を実施し155件の相談を受けた。 また、「ヤングテレホン防府」について、市広報等による啓発活動の実施や各小・中・高等学校へ周知を図った。</p> <p>(3) その他 こども環境クリーンアップ活動などを実施し、環境浄化に努めた。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4

	<p>関係機関及び関係団体との緊密な連携のもと、青少年健全育成のための諸事業を実施することができた。</p> <p>また、“社会を明るくする運動”「青少年の非行・被害防止全国強調月間」の啓発事業として、「第6回スピーチコンテスト」を実施した。</p> <p>また、平成25年度は山口県で日本ジャンボリーが行われ、防府市においても地域プログラムを実施し、本市のPRを行うとともに、青少年の国際感覚が醸成された。</p> <p>今後も引き続き、防府市青少年育成市民会議を中心に、「家庭の日」運動を推進するとともに、関係団体の活動を支援し、青少年の健全育成活動に取り組んで行く。</p> <p>補導件数については、若干減少したが、学校・警察・関係機関・諸団体との連携を強化した。</p> <p>相談件数については、平成24年度と比較すると20件減少しているが、相談のあった青少年や保護者に対しては、適切な指導・助言ができた。</p> <p>今後も、関係機関や諸団体及び各地区青少年補導員との連携を強化し、補導活動の充実を図るとともに、育成センターで実施している相談活動について周知する。</p>
平成25年度事業の課題・改善策	<p>青少年が携帯電話による事件やトラブルに巻き込まれる事案が跡を絶たないため、関係機関・団体との連携を強化し、被害に遭わないよう諸事業に取り組んでいく。</p> <p>青少年育成センターや青少年補導員による青少年の補導人数は、ここ数年横ばい傾向にあるが、引き続き関係機関・団体と連携を強化し、補導活動の充実を図る。</p> <p>また、相談件数は減少したが、青少年や保護者に対し相談活動の周知を継続して行い、引き続き青少年の保護育成を図っていく。</p> <p>なお、平成25年度に開催された日本ジャンボリーにおける、防府地域プログラムの実施結果を分析し、平成27年度に開催される世界スカウトジャンボリーに活かしていく。</p>

(2) 放課後子ども教室推進事業の実施

事務事業	放課後子ども教室推進事業
事務事業概要	放課後の子どもの安全・安心な居場所づくりとして小学校区単位での事業拡大を図る。
平成24年度事業の課題・改善策	放課後子ども教室は、開講後も事業の継続のためのきめ細かい行政支援が必要であり、各放課後子ども教室運営委員会への出席や、必要に応じて各教室との連絡調整を行っていく。また、活動のマンネリ化を防ぐためにコーディネーター、学習アドバイザー、安全管理員等の指導員に対する研修講座の充実を図る。

	新規に開講するには、地域ボランティアの協力や活動場所の確保等、様々な課題があるため、関係機関・団体等との連携を図り、新規開講に向けて支援していく。					
事務事業実績	<p>平成19年度から国・県の補助を受け、放課後の子どもの安全で健やかな居場所づくりを目的に各地区において、次のとおり実施している。</p> <p>佐波放課後子ども教室（平成19年度から） 牟礼放課後子ども教室（平成19年度から） 華城放課後子ども教室（平成20年度から） 松崎放課後子ども教室（平成21年度から） 中関放課後子ども教室（平成22年度から） 玉祖放課後子ども教室（平成23年度から） 大道放課後子ども教室（平成24年度から） 新田放課後子ども教室（平成25年度から）</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	佐波、牟礼、華城、松崎、中関、玉祖、大道については、引き続き放課後子ども教室を実施し、新田において、新規の教室を開講した。					
平成25年度事業の課題・改善策	<p>放課後子ども教室は、開講後も事業の継続のためのきめ細かい行政支援が必要であり、各放課後子ども教室運営委員会への出席や、必要に応じて各教室との連絡調整を行っていく。また、活動のマンネリ化を防ぐためにコーディネーター、教育活動推進員(学習アドバイザー)、教育活動サポーター(安全管理員)等の指導員に対する研修講座の充実を図る。</p> <p>新規に開講するには、地域ボランティアの協力や活動場所の確保等、様々な課題があるため、関係機関・団体等との連携を図り、新規開講に向けて支援していく。</p>					

(3) 学校支援地域本部事業の実施

事務事業	学校支援地域本部事業
事務事業概要	地域全体で学校教育を支援する体制を作り、学校支援ボランティアを活用した学校教育の充実と地域の教育力の活性化をめざす本事業を推進する。（平成23年度～25年度：華西中学校支援地域本部）
平成24年度事業の課題・改善策	地域の教育力を学校支援に結びつけるため学校支援コーディネーターが華西中学校に勤務し、学校の実態を考慮し、教員の要望を聞きながら、地域ボランティア間の連絡調整を行っていく。また、ボランティアの資質向上やボランティア間のつながりを深めるために学校支援コーディネーター等に対する

	研修講座の充実を図る。					
事務事業実績	平成23年度から国・県の補助を受け、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進するため、華西中学校に学校支援地域本部を設置し、学校支援コーディネーターが学校と学校支援ボランティア間の連絡調整等を行い、地域ぐるみで学校の支援活動を実施した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	学校支援コーディネーターが学校と学校支援ボランティア間の連絡調整等を行い、学習支援・環境整備・学校行事支援・部活動指導・見まわり活動等、地域ぐるみで学校を支援した。本事業も3年目となり、学校と地域のつながりが日常化し、方向性が定まった。					
平成25年度事業の課題・改善策	地域の教育力を学校支援に結びつけるため学校支援コーディネーターを華西中学校に配置し、学校の実態を考慮し、教員の要望を聞きながら、地域ボランティア間の連絡調整を円滑に行うことができた。平成25年度で事業は終了したため、華西中学校の実践で得た情報やノウハウを、各学校への学校支援活動の運用に活用できるよう、研修や広報活動によって広める必要がある。					

(4) 人権学習の推進

事務事業	人権学習の推進					
事務事業概要	1 人権学習推進市民会議を中心に講演会、市民セミナーを企画し、市民ぐるみの人権学習・啓発を促進する。 2 人権学習推進委員の研修を充実し、地域、団体、職場等における学習機会の充実を図る。					
平成24年度事業の課題・改善策	セミナーや講演会への参加者を増やすために、広報の方法を検討する必要がある。 また、地域や企業、団体での人権学習会の開催数を増やすために、人権学習室のPRも増やす必要がある。					
事務事業実績	1 防府市人権学習推進市民会議を中核として、市民、地域、団体、職場等と連携し、市民一人ひとりが人権尊重の理念について主体的に学び、人権意識の高揚を図ることを目的として、総会・セミナー・講演会を実施した。 【実施事業】 市民会議総会 265名 市民セミナー 337名(4回) 講演会 480名 2 市内各地域、団体より選出された人権学習推進委員と連携し、さまざまな人権課題に対する正しい理解を深めるため、市内各地で研修会を実施し					

	た。また、これらの研修会に、人権学習指導員を100回派遣した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	1 市広報、電光掲示板、防府市HP、校長会、PTA等での宣伝や市民会議常任委員・人権学習推進委員の活動成果により、予定どおりの参加人員を確保することができた。 2 人権学習推進委員の協力により、所属する地域や学校、団体等において数多くの研修会を実施することができた。					
平成25年度事業の課題・改善策	市民一人ひとりが人権問題を正しく理解し、人権感覚を育むためには、人権学習機会への多くの市民の積極的な参加や、地域、企業、団体等における人権学習会の開催数を増やす必要がある。市民セミナー、講演会の開催や人権学習会への支援等、幅広い周知活動をしていく必要がある。					

◎ 郷土の伝統・文化の伝承と文化・芸術活動の支援

(1)文化・芸術等の振興

事務事業	文化・芸術及び科学教育の振興					
事務事業概要	指定管理者である（公財）防府市文化振興財団と連絡・連携を密にし、管理運営の効率化を図るとともに、多彩な事業展開に努め、文化・芸術及び科学教育の振興を図る。					
平成24年度事業の課題・改善策	文化・芸術活動として、多彩な行事を企画開催することで、より多くの市民に文化・芸術、科学教育に触れる機会を作る。					
事務事業実績	（公財）防府市文化振興財団により、それぞれの事業を実施した。 ・音楽鑑賞事業 共催事業と合わせて16事業28公演を実施 ・美術鑑賞事業 企画展4回、美術鑑賞バス2回を実施 ・科学教育活動 特別・企画展や講演会などを開催					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	企画展・特別展に話題性の多い企画を実施したことにより、施設の年間利用者が伸びるとともに、多くの市民に文化・芸術、科学教育に触れる機会を提供することができた。					
平成25年度事業の課題・改善策	施設利用者数の更なる増加にむけて、市民が文化・芸術に関心を持つ機会と、拠点施設として斬新で多彩な行事を市民に提供する。					

事務事業	文化・芸術活動の支援				
事務事業概要	防府市文化協会を通じて、各文化団体の育成を図り、市民の文化・芸術活動を支援する。				

平成24年度 事業の課題 ・改善策	防府市文化協会への指導・支援を行うことにより、各文化団体の育成を図る。					
事務事業実績	防府市文化協会を通じて、各文化団体の育成のため、市民の文化・芸術活動に対して、支援をするとともに、毎年恒例行事となる市民文化祭を開催した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	予定していたスケジュールで多くの市民の参加により、市民文化祭が開催できた。また、防府市文化協会の新規加盟については、10団体の参加希望があり、組織力が向上した。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	防府市文化祭を各団体の連携により開催し、団体相互の交流により、各団体の育成を図る。					

学識経験者 の意見	3領域10事業中9事業が総合評価Aであり、かつ観点別評価が昨年度よりアップしているという点で、実績は極めて良好なものであると言える。なお、総合評価Bの「教育集会所の有効活用」については、昨年に続く同評価となっている。その内容としては「利用人数」という量的尺度に拠っているが、市民が多様な学習機会に恵まれている今日、参加者の質的満足度を推し量る尺度の開発が求められよう。
--------------	--

〔4〕文化財課

◎ 基本方針

防府市は古代、周防国の国府が置かれ、周防の政治・経済・文化の中心として発展し、多くの歴史的遺産に恵まれている。これら市民の貴重な財産である文化財の調査、保護・保存、及び活用を行い、文化財保護意識の高揚と普及に努める。

◎ 魅力ある教育施設の整備と有効活用

(1) 文化財保護意識の高揚と普及

事務事業	防府市文化財郷土資料館の充実					
事務事業概要	市民に防府の文化財に対する関心や、文化財保護への意識を高めてもらうため、防府市文化財郷土資料館において企画展を開催するほか、記念講演会や各種体験学習等の行事を行う。					
平成24年度事業の課題・改善策	市民が郷土の文化財により親しめるような企画展や講座・講演会を開催するが、広報活動を工夫、拡大して入館者数の増加をめざす。					
事務事業実績	【企画展】 1 山口県埋蔵文化財センター巡回展「発掘された山口」 (平成25年5月3日～6月30日)まで開催。入館者数195人 記念講演会・ギャラリートークを6月8日に実施。43人 2 「防府のやきもの」(平成25年11月19日～平成26年3月2日) 入館者数648人					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	企画展「防府のやきもの」では、初来館者が多く新たな顧客を掘り起こすことが出来た。 年間の来館者数は2,800人で、徐々にではあるが来館者数が増加している。					
平成25年度事業の課題・改善策	市民及び来館者が興味を持てるような企画展および関連する講演会等を開催し、また、常設展についても、防府の歴史や文化財を理解でき、何度も訪れたくなるような展示替えを企画する必要がある。 建物や設備の老朽化が進み、日常業務にも支障をきたしつつあるため、早急な改善策を打ち出す必要がある。					

◎ 郷土の伝統・文化の伝承と文化・芸術活動の支援

(2) 文化財の保護・保存・活用

事務事業	三田尻御茶屋旧構内(英雲荘)の保存修理					
事務事業概要	<p>平成8年に始めた史跡萩往還関連遺跡である三田尻御茶屋の建物修理が終わり、藩政時代の御茶屋の役割を学ぶ施設として、一般公開を行っている。</p> <p>平成25年度は英雲荘にゆかりの人物の肖像画や書の複製品を製作し、展示する。又、防災設備の設置及び庭園整備に必要な発掘調査を行う。</p>					
平成24年度事業の課題・改善策	庭園を含めた周辺整備を保存・整備していくうえで、研究成果と市民の要望をどのような形で反映させていくかが課題であるが、現地にて説明会等を開催し、市民の要望等を取り入れていきたい。					
事務事業実績	<p>防災設備として半地下式の貯水槽・ポンプ室・放水銃を設置し、修復の終わった建物の防災施設整備を行った。</p> <p>発掘調査では、防災施設設置予定箇所に調査区を設定し、層位及び遺構検出や庭園流路の調査を行い、検出した大正期の張り石を3Dレーザー計測による測量及び写真撮影を実施した。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	<p>防災設備を予定通り設置することができ、以前より安全・安心に一般公開することができるようになった。</p> <p>庭園内の発掘調査では、大正期に行なわれた枯山水に改変された状況を把握することができた。</p>					
平成25年度事業の課題・改善策	庭園内の流路の整備方針を固め、花月楼周囲の歴史的な変遷を捉えるために、次年度も発掘調査を実施しながら庭園整備のための基礎情報を得る必要がある。					

事務事業	史跡周防国衙跡公有地化事業					
事務事業概要	<p>昭和12年に国の史跡に指定された周防国衙跡について、土地の公有地化事業を昭和39年度から実施している。</p> <p>昭和55年度からは、国府津(港)が設けられていたと考えられる船所・浜ノ宮や西北隅、大樋土手の公有地化を進めており、平成25年度は船所・浜ノ宮の一部を公有地化する。</p>					
平成24年度事業の課題・改善策	全国の国府の中では最も早く国の史跡に指定された「周防国衙跡」の地下遺構を保存整備するため、整備計画や地権者の意向に配慮しながら史跡指定地の公有化を図る必要がある。					
事務事業実績	船所・浜ノ宮の一面を公有地化(国衙五丁目:1,695 m ²)し、同地区の公有化率が77%となった。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性

	A	1 2	3	3	2	4
	当初予定していた土地とは違う土地となったが、同じ船所・浜ノ宮地区の土地を公有化することができた。					
平成25年度事業の課題・改善策	<p>買上予定地の土地所有者との連絡・調整を密にし、確実に公有化を図る必要がある。</p> <p>公有化を進めながら、整備のための発掘調査を計画し、将来の史跡整備を見据えた保存管理計画を作成する。</p>					

事務事業	指定文化財保存修理事業					
事務事業概要	<p>国宝や重要文化財等の保護・保存のため、所有者が実施する保存修理事業費の一部補助を行う。</p> <p>平成25年度は、阿弥陀寺仁王門の修理事業及び重要文化財旧毛利家本邸の保存活用計画の策定事業を行う。</p>					
平成24年度事業の課題・改善策	<p>文化財の保護や保存及び管理については、文化財保護法等の法令に基づいて行われるため、専門家や専門機関との連携を密にしていかなければならない。</p> <p>また、今後も緊急性の高いものから、適正に保存修理を行っていく。</p>					
事務事業実績	<p>旧毛利家本邸は、大正5年に建設されて以来100年近く経過し、今後の保存修理を行うための保存活用計画を策定する委員会を開催した。</p> <p>阿弥陀寺仁王門の保存修理工事に着手し、重要文化財金剛力士立像2軀を境内収蔵庫に移動した。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 3	3	3	3	4
	阿弥陀寺仁王門は、建立後300年以上が経過し、小屋裏の損傷が激しく屋根全体が傾き、屋根材の茅も痛み雨漏りが生じていたため、適切な時期に保存修理事業に着手することができた。					
平成25年度事業の課題・改善策	<p>阿弥陀寺仁王門では、江戸時代に再建されて以来の古い組み物や彫刻が見受けられるが、桁より上の小屋組みや妻飾りなどは改修が行われており、補修された時代の特定や当初の建築に修復するために文献資料や残された部材を検討し、今後の保存修理について専門家を交えて検討していくことが必要になる。</p> <p>旧毛利家本邸の保存活用計画については、次年度に策定し、将来の保存修理に備える。</p>					

事務事業	周防国府跡ほか発掘調査					
事務事業概要	<p>周防国府の実態を解明し、保存すべき地域の決定、史跡整備・保存への基礎資料とするため昭和47年度から発掘調査(計画調査)を実施している。</p> <p>平成25年度は、史跡「周防国衙跡」や開発事業に伴う市内各地の発掘調</p>					

	<p>査、及び右田小学校校舎改築に伴う調査を行う。また、大道地区の経営体育成基盤整備事業に伴う発掘調査を行う。</p>												
平成24年度事業の課題・改善策	<p>今年度は、保存目的の調査ができなかったため、次年度は将来史跡指定を目指した調査地の選定と調査計画を立案する必要がある。また、史跡「周防国衙跡・二町域」での、政庁西限区画を確認する調査が必要となる。</p>												
事務事業実績	<p>史跡「周防国衙跡・二町域」での発掘調査を行い、奈良時代と中世の東西に伸びる溝を検出したのは、大きな成果といえる。</p> <p>また、計画調査として周防国分寺と周防国府跡の2箇所調査を実施し、周防国府跡の調査では、次年度も調査を続け、遺構の解明をめざす。</p> <p>右田小学校の校舎改築に伴う発掘調査では、弥生時代から江戸時代にかけての遺構を多数検出し、下右田遺跡の重要性を再確認できた。</p> <p>圃場整備に伴う下津令遺跡では、県埋蔵文化財センターの協力を仰ぎ、発掘調査を実施し、古墳時代及び中世集落の一端を解明することができた。</p> <p>開発に伴う確認調査では、市内5箇所の遺跡で13地点の確認調査を実施し、開発事業との調整を図った。</p> <p>平成24年度に実施した発掘調査の報告書を作成した。</p>												
評価	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">総合評価</th> <th>到達度</th> <th>事業効果</th> <th>効率性</th> <th>方向性</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>1 2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> </table>	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性	A	1 2	3	3	2	4
	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性							
A	1 2	3	3	2	4								
	<p>今年度は、想定以上の発掘・確認調査を実施したが、次年度に繰り越す調査もなく、効率的な事業が運営できた。</p>												
平成25年度事業の課題・改善策	<p>史跡内の二町域の調査では、政庁西の外郭を探ることが出来ず、次年度も調査を継続する必要がある。</p> <p>計画調査や確認調査などを分散させ、一時期に集中することがない様に調査計画を作成する。</p>												

事務事業	指定文化財の保護管理及び未指定文化財の調査
事務事業概要	<p>指定文化財の巡視を行い、保護管理に努めるとともに、説明板の設置や取替などを行う。また、社寺所有の未指定文化財の悉皆調査を行い、記録を保存し報告書を作成する。</p>
平成24年度事業の課題・改善策	<p>指定文化財の保護管理状況については、文化財保護指導員の巡視により一定の把握ができています。今後は報告で指摘された事項について、素早い対応を行う。また指導員の巡視だけでなく、職員も折にふれて巡視対象文化財の状況を確認するように努める。</p> <p>未指定文化財の悉皆調査については、未調査の社寺も多く残っており、調査をなるべく迅速に進めていく。なお、平成25年度は、松崎地区において悉皆調査を再開する。</p>
事務事業実績	<p>国・県、市指定文化財については、県・市が委嘱する文化財保護指導員が、巡視活動を行い適切に文化財を管理することができた。</p> <p>未指定文化財の悉皆調査を再開し、満願寺の調査を行い記録保存を実</p>

	<p>施した。</p> <p>報告書については、防府市文化財調査報告書(松崎地区)を刊行した。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	<p>指定文化財の維持管理および未指定文化財の調査を再開することができ、文化財の保護・管理事業を適切に行うことができた。</p>					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	<p>未指定文化財の悉皆調査では、各社寺等に存在する膨大な資料があるため、限られた人数・時間では資料整理に限界がある。今後有効な手段・方法を模索していくことが必要と思われる。</p>					

学 識 経 験 者 の 意 見	<p>地域の特性を活かし、時宜にかなった市民の文化的要求に応えるべく努力してきた足跡が2領域6事業すべてに総合評価Aとされたことにあらわされていると言える。文化財の保護・維持・活用の必要性和社会的要求は今後一層高まると思われるので、引き続きの地道な努力が期待される。</p>					
--------------------	---	--	--	--	--	--

〔5〕 スポーツ振興課

◎ 基本方針

健康でゆとりと生きがいに満ちた市民生活を送るために、スポーツ活動の果たすべき役割は極めて大きくなっている。

スポーツの推進、健康づくり、絆づくりのため、幅広い世代がスポーツと多様に関わることのできる機会を提供するとともに、市民が主体となった新たな生涯スポーツの仕組みづくりやスポーツボランティアの育成を進める。

また、スポーツ施設の計画的な整備、拡充と効率的な活用を図る。

◎ 魅力ある教育施設の整備と有効活用

(1) スポーツ拠点施設の充実と体育施設の整備

事務事業	プール建設事業					
事務事業概要	老朽化のため平成23年度から閉鎖しているスポーツセンタープールに替わる市民プールの整備を進める。平成25年度に建設工事に着手し、平成26年7月のオープンを目指す。 建設スケジュールがタイトであるため、関係課との調整を十分に行うとともに、円滑な運営に向けた準備に着手する。					
平成24年度事業の課題・改善策	平成26年シーズンのオープンに向け、平成25年度中に建設工事を完了するとともに、運営開始に向けたマニュアル等の整備を行う。 スケジュールがタイトであるため、関係課との調整を十分に行い、円滑な運営に向けた準備を行う。					
事務事業実績	新プールの建設に着手					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	プール建設は概ね計画どおりに進捗した。					
平成25年度事業の課題・改善策	建設工費入札の不調により工事の着手が遅れたが、26年度7月のオープンにむけて関係各課と調整しながら建設を進めることができた。今後、備品等の購入準備、運営マニュアルの作成等供用開始後円滑に施設運営できるよう準備を行う必要がある。					

事務事業	体育施設運営事業					
事務事業概要	<p>【体育館、武道館、陸上競技場】</p> <p>指定管理者が公の施設の設置目的を理解し、適正な管理運営と良好なサービスの提供を行っているかを、きめ細かくモニタリングし、利用者に更に喜んでいただける施設になるよう、指示・助言を行う。</p> <p>【野球場、運動広場】</p> <p>財団法人防府スポーツセンターの解散に伴い、平成25年度からは、直営で管理運営を行う。</p> <p>また、平成27年度からの指定管理者制度導入に向けた準備を進める。</p>					
平成24年度事業の課題・改善策	市民だれもがスポーツを気軽に楽しめる環境を目指し、親子向け、高齢者向け、初心者向けなど、幅広い市民を対象としたメニューの提供を引き続き推進する。					
事務事業実績	幅広い市民を対象とした様々な教室、サークル、イベント等を、年間を通して開催し、指定管理者に対しては、毎月の定例会をはじめとするモニタリングを通して、利用者サービスの向上に向けた助言・指導を行った。今年度から直営となった野球場・運動広場について嘱託職員を雇用し、管理運営にあたった。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	4	3	3	3
評価	指定管理者の管理する施設の利用は前年より26,208人多い360,983人となり、利用しやすい環境づくりにより体育施設の利用者の増加に繋がったといえる。野球場・運動広場については、今年度より直営となり良好な管理・運営に努めた。					
平成25年度事業の課題・改善策	市民だれもがスポーツを気軽に楽しめる環境を目指し、親子向け、高齢者向け、初心者向け、障害者向けなど、多くの市民を対象としたメニューの提供を引き続き推進する。直営施設については、利用者の利便性の向上に向けて更なる改善を図る。					

◎ 生涯にわたるスポーツライフの確立と競技力の向上

(1) スポーツ推進計画の策定

事務事業	防府市スポーツ推進計画の策定
事務事業概要	<p>スポーツ基本法第10条に基づき、防府市が目指すスポーツ推進の基本的方向を定めるため、「防府市スポーツ推進計画」を策定する。</p> <p>庁内委員会と、外部委員による防府市スポーツ推進計画策定委員会を開催し計画案を策定するとともに、広く意見を取り入れるためパブリックコメントを実施し、計画の策定を完了する。</p>
平成24年度事業の課題	引き続き策定委員会等を開催し、計画案を策定する。また、広く意見を取り入れるため、パブリックコメントを実施し、平成25年度末

・ 改善策	までに計画の策定を完了する。					
事務事業実績	<p>防府市スポーツ推進計画策定委員会ならびに防府市スポーツ推進計画策定庁内委員会の開催と、市民アンケートに基づく現状分析を実施し、計画を策定した。</p> <p>防府市スポーツ推進計画策定委員会の開催 3回 防府市スポーツ推進計画策定庁内委員会の開催 3回</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	AA	15	4	4	3	4
	スポーツ担当部署の市長部局の移管に伴い、計画の一部修正を行い、予定どおりスポーツ推進計画の策定を完了した。					
平成25年度事業の課題 ・ 改善策	今後多くの市民に計画の内容を浸透させ、各種取組みの実施によりスポーツの促進を図る。					

(2) 市民スポーツの普及

事務事業	我がまちスポーツ推進事業					
事務事業概要	<p>山口国体・山口大会の開催により得られた財産（人材・施設等）を活用し、地域住民をあげて参加し、親しみ、支えようとするイベントを開催することにより、「我がまちスポーツ」として地域に根付かせ、スポーツの推進とスポーツによる地域の活性化を図る。</p> <p>なお、イベント開催については、国体運営に携わった人材やノウハウを保有する防府市体育協会とともに、大規模大会、強豪チーム招聘試合、技術講習会、初心者体験教室等を開催する。</p> <p>【実施種目】 自転車、バレーボール、バスケットボール、野球</p>					
平成24年度事業の課題 ・ 改善策	国体開催により培われた人材や組織、市民のスポーツに対する興味を衰退させることのないよう、防府市開催の国体4競技を「我がまちスポーツ」として位置づけ、競技力向上や底辺拡大の各種イベントを重点的に実施する。					
事務事業実績	山口国体の防府市開催4種目を「我がまちスポーツ」として位置づけ、体育協会と協働で競技力向上や底辺拡大の各種イベントを開催した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	我がまちスポーツ推進事業を実施し、国体開催種目をこれまで以上に地域に根付かせることができた。					
平成25年度	これまでの事業を引き続き充実させる。					

事業の課題 ・改善策	
---------------	--

(3) スポーツイベントの充実

事務事業	防府読売マラソン大会開催事業					
事務事業概要	<p>競技志向のマラソン大会を開催することにより、「する」スポーツのみならず、「観る」、「支える」スポーツとしてスポーツに親しむ機会を提供する。</p> <p>史上最多の3,136人（前対比+756人）のエントリーを得た第43回大会の検証を各関係団体と共に行い、これまで以上に充実した大会運営を目指す。</p>					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	<p>ここ数年で参加者数が大幅に増加しているが、本大会のコースで3,000人規模の競技会を開催することは、限界に達している。「新人の登竜門」として競技性を重視した大会運営を維持するためにも、参加者がよりストレスなく競技に専念できる環境を整えるべく、何らかの参加人数制限を実施する必要がある。</p>					
事務事業実績	<p>史上最多であった前回は更に894人上回る4,030人のエントリーがあり、盛大に開催することができた。</p> <p>インターネット受付を初めて導入し、参加者の利便性の向上を図ることができた。昨年度より実施したモバイルAED隊の規模を更に拡大し、ランナーにより良いレース環境を提供することができた。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	AA	15	4	4	3	4
評価	<p>想定を超える史上最多の出走者を迎えたことにより、走路環境等に改善を求める声が多く寄せられた。適正な定員等の見直しにより良好な大会運営を目指す。</p>					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	<p>「新人の登竜門」として競技性を重視した大会運営を維持するためにも、参加者がよりストレスなく競技に専念できる環境を整えるべく、何らかの参加人数制限を実施する必要がある。</p>					

学識経験者の意見	<p>2領域5事業すべてにおいて総合評価が高く、特に計画策定体制の整備・充実とイベント充実におけるAAは、基軸と拡がりの統一的構造の実現という点で意義深い。なお、マラソン大会の規模拡大に伴う条件整備については、ニーズの高さに対応する安全・安心・今後の見通し等の視点から早急の検討・方針策定が必要であろう。</p>
----------	--

〔6〕 図書館

◎ 基本方針

情報・文化・生涯学習の拠点としての役割を認識し、利用者のニーズに的確に対応したサービスを提供できるよう、図書資料・視聴覚資料の充実に努める。

また、移動図書館車の運行などによる、市内全域での幅広いサービスを推進するとともに、より一層親しまれる便利で快適な図書館利用環境の整備に努める。

子どもの読書活動の推進については、「防府市子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関との連携を図りながら、総合的・計画的な実施を図る。

◎ 魅力ある教育施設の整備と有効活用

(1) 図書館資料の質・量両面の充実

事務事業	新刊書籍・視聴覚資料等の充実・整備					
事務事業概要	「防府市立防府図書館資料収集要綱」に基づき、利用者ニーズに対応した資料の質・量両面にわたる充実・整備に努める。					
平成24年度事業の課題・改善策	新規利用者の開拓につながる潜在的ニーズの研究と、それへの的確な対応が必要である。					
事務事業実績	図書を13,035冊、視聴覚資料を115点購入した。 別に図書1,178冊、視聴覚資料51点の寄贈を受けた。 ※ 平成25年度末蔵書冊数・視聴覚資料点数 図 書 419,189冊(年間増 11,654冊) 視聴覚資料 7,985点(年間増 166点) ※ 平成25年度図書館資料整備費実績 図 書 23,701,671円 視聴覚資料 444,055円					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	中高生向け小説の充実等により、新しい利用者層の開拓を図った。利用者の予約・リクエストを分析して、適正な対応ができた。					
平成25年度事業の課題・改善策	貸出状況の分析と利用者の潜在的ニーズの研究、それへの的確な対応が必要である。					

事務事業	雑誌及び新聞の充実・整備																							
事務事業概要	雑誌・新聞のタイトル数の維持に努め、利用者のニーズに対応した幅広い分野の逐次刊行物の充実・整備を行う。																							
平成24年度事業の課題・改善策	休廃刊の雑誌等を迅速に補充して、多様な利用者ニーズへの適切な対応をしていく必要がある。																							
事務事業実績	<p>新聞19紙、雑誌303誌を購入した。</p> <p>※平成25年度図書館資料整備費実績</p> <table border="0"> <tr> <td>新聞等</td> <td>592,976円</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>雑誌</td> <td>2,983,566円</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>追録等</td> <td>647,040円</td> <td colspan="4"></td> </tr> </table>						新聞等	592,976円					雑誌	2,983,566円					追録等	647,040円				
新聞等	592,976円																							
雑誌	2,983,566円																							
追録等	647,040円																							
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性																		
	A	12	3	3	3	3																		
	リクエスト等を反映して、休廃刊の雑誌等を迅速に補充し、資料の充実・整備を図ることができた。																							
平成25年度事業の課題・改善策	雑誌等の刊行状況を研究して、多様な利用者ニーズへの適切な対応をしていく必要がある。																							

事務事業	郷土(地域)関連資料の充実・整備					
事務事業概要	郷土(地域)資料、特に防府市関係資料の質・量両面にわたる充実を図り、他に誇ることのできる特徴的なコレクション形成に努める。 また、防府史料第63集を刊行するとともに、デジタル書籍化し、ホームページ上に掲載する。					
平成24年度事業の課題・改善策	資料及び資料リストの電子化・公開等による情報発信の強化を図る必要がある。					
事務事業実績	<p>郷土関連資料については、159冊を購入し、別に552冊の寄贈を受けた。</p> <p>防府史料第63集『毛利家伝来故実書～仕付方々之書～』については、3月に製本史料10冊と電子データによる史料を刊行し、電子データ史料はホームページ上に掲載した。</p> <p>既刊の防府史料等61冊を電子書籍形式にして、ホームページ上に公開した。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	14	3	4	4	3
	既刊の防府史料を電子書籍にして、ホームページに公開することにより、国内外に広く情報を発信することができた。 書店等に流通しない資料も積極的に収集した。					

平成25年度 事業の課題 ・改善策	郷土関連資料を積極的に収集するとともに、利用者に活用されるよう、情報発信の強化を図る必要がある。
-------------------------	--

事務事業	上山満之進翁の顕彰及び三哲文庫の事績の後世への継承(新規事業)					
事務事業概要	上山満之進翁の顕彰及び三哲文庫の事績を後世へ継承するため、関連資料の収集、専用の展示コーナー整備や関係資料のデジタル化とホームページ上での公開等を行う。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	—					
事務事業実績	上山満之進翁及び三哲関係資料専用展示コーナーを設置し、専門資料等を古書も含めて収集した。 上山満之進翁関係資料を電子書籍化してホームページ上に掲載した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	専用コーナーの関係資料展示や、ホームページ上での資料公開等により、上山満之進翁の顕彰及び三哲文庫の事績について、情報を発信することができた。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	上山満之進翁の顕彰及び三哲文庫の事績について、分かりやすく解説したパンフレット類の配布や、展示物に詳しい説明を表示することにより、関心を高める必要がある。					

事務事業	春川市立図書館との資料交換事業					
事務事業概要	姉妹都市春川市立図書館との資料交換協定に基づき、韓国で発行された書籍の収集・充実に努める。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	これまでに受け入れた韓国語蔵書の書誌情報を点検・整備していく必要がある。					
事務事業実績	春川市立図書館から韓国語書籍100冊の寄贈を受け、整理して利用に供した。 防府図書館からも郷土作家関連書籍等100冊を春川市立図書館に寄贈した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 2	3	3	3	3
	インターネット上の情報や翻訳機能等を利用して、効率的に書誌情報を作成し、受入から短期間で利用者に提供することができた。					

平成25年度 事業の課題 ・改善策	継続的に韓国語蔵書の書誌情報を点検・整備するための人材を育成する必要がある。
-------------------------	--

◎一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

(1)図書館利用者サービスの充実

事務事業	資料提供サービスや情報提供サービスの充実（新規事業）					
事務事業概要	利用者の求めに的確に対応した、資料提供サービスやレファレンス業務などの情報提供サービスの充実に努める。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	—					
事務事業実績	調べ学習ガイドや調査研究の手引き（パスファインダー）などを作成して、利用者に配布した。 市役所各課へ庁内用利用カードを交付した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	4	3
	庁内用利用カードの交付等により、行政支援サービスの充実に図った。 レファレンス研修等を実施し、職員の資質向上を図ることができた。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	職員の研修強化により、適切な資料・情報の提供を図る必要がある。					

事務事業	移動図書館車運行及び広告事業					
事務事業概要	図書館から遠距離に居住する方、障害のある方、交通手段のない方等の、幅広い利用が推進できるよう、市内全域サービスの充実に目指す。また、ホームページや市広報等により、運行日程等の周知を図る。 また、移動図書館車後部扉2枚に広告枠を設置する広告事業を実施し、事業収入をもって図書館運営の充実に図る。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	各ステーションの利用しやすい時間帯と運行順の検証により、更なる利用拡大を図る必要がある。					
事務事業実績	利用状況や地域の要望により、3ステーションを新設し、2ステーションの廃止とコース及び運行順の変更を行った。 広告事業により、8,032円の事業収入があった。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3

	利用しやすいステーションの設定や各ステーションの利用者層に応じた図書構成・配架の工夫により、新しい利用者を開拓することができた。
平成25年度 事業の課題 ・改善策	各ステーションの利用しやすい時間帯と運行順の検証により、更なる利用拡大を図る必要がある。

事務事業	地域文庫・貸出文庫の利用促進					
事務事業概要	移動図書館車と並行した市内全域サービスの一環として、市内15か所の公民館等に設置している地域文庫と各種団体への貸出文庫の利用促進を図る。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	地域文庫の特性を生かした活用方法やサービスの充実により、利用の拡大を図る必要がある。					
事務事業実績	各地域文庫に200冊ずつ年4回配本を行った。 15の地域文庫で、延べ780人の貸出利用者があり、1,632冊の貸出を行った。 貸出文庫では108の団体に22,027冊の貸出を行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	本館や移動図書館との連携やリクエスト対応の拡大により、利便性を高めることができた。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	地域文庫の広報強化とサービスの充実により、利用の拡大を図る必要がある。					

(2) 図書館事業への民間活力活用推進

事務事業	図書館事業への市民参画推進					
事務事業概要	行事運営等について、ボランティア等との協働を推進し、図書館事業への市民参画及びサービスの向上を図る。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	図書館とボランティア等とが連携を密にして、活動や成果を発表する場の提供などにより、グループの活性化と図書館サービスの向上が図れるよう、更なる協働体制の推進が必要である。					
事務事業実績	防府市子ども読書フェスティバル、防府図書館まつりについては、図書館内生涯学習グループなどの民間団体やボランティアが主体となった実行委員会形式で、企画・立案・管理・運営を行った。 その他の図書館行事も、図書館内生涯学習グループやボランティアと図書館とが連携・協力して実施した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性

	A	1 2	3	3	3	3
	図書館内生涯学習グループ等の積極的な協力を得て、図書館運営への市民参画を推進することができた。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	図書館とボランティア等とが連携を密にして、活動や成果を発表する場の提供などにより、グループの活性化と図書館サービスの向上が図れるよう、更なる協働体制の推進が必要である。					

(3) 学校図書館とのネットワーク化の推進

事務事業	学校図書館管理システム導入事業					
事務事業概要	<p>将来の市立図書館と学校図書館とのネットワークシステム構築による資料の共有化と有効活用を目指し、学校図書館管理システムを導入して、管理の適正化と調べ学習等における利用の活性化を図る。</p> <p>昨年度、モデル校の小学校2校に導入した学校図書館管理システムを、今年度は残るすべての小学校15校に導入し、学校図書館の効果的・効率的な管理・運営を図る。</p>					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	平成25年度は学校図書館管理システムを全小学校に導入する。 学校図書館司書やボランティアと協力して、図書管理の適正化と利用の活性化を図る必要がある。					
事務事業実績	全小学校に学校図書館管理システムを導入し、9月から運用を開始した。 小学校の学校図書館担当者や学校図書館司書にシステムの操作研修を実施した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	1 4	3	3	4	4
	全小学校に学校図書館管理システムを導入したことにより、図書の検索が可能になり、資料の有効活用が図れるようになった。					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	平成26年度は学校図書館管理システムを全中学校に導入する。 学校図書館司書やボランティアと協力して、図書管理の適正化と利用の活性化を図る必要がある。					

(4) 集会・文化活動及び広報活動の推進

事務事業	集会・文化活動推進事業					
事務事業概要	企画展示や集会・文化行事、図書館資料を活用する生涯学習グループの奨励・育成、図書館ボランティアの養成等の業務を推進・拡大し、図書館の多角的な利用促進を図る。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	読書や図書館利用の啓発につながる文化活動を拡充する必要がある。					
事務事業実績	毎月の資料展示のほか、「防府市図書館を使った調べる学習コンク					

	<p>ル」、おはなしボランティア養成講座等を開催した。</p> <p>6月8日(土)開催の第3回防府市子ども読書フェスティバルは、子どもの読書に関する講演会及び読書活動・生涯学習活動紹介を中心に行った。</p> <p>10月19日(土)開催の防府図書館まつりは、愛情防府フリーマーケットの一環行事として実施し、図書館サークル活動展示や移動図書館車による貸出サービスなどを行った。</p> <p>図書館内生涯学習グループ40団体は、定例活動や講演会・講習会開催等活発な活動を展開し、図書館は、その奨励・育成に努めた。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	AA	15	3	4	4	4
	<p>「防府市 図書館を使った調べる学習コンクール」では、29作品の応募があり、図書館を活用した学習の啓発を図ることができた。</p> <p>図書館内生涯学習グループの活動が活性化し、新しいグループや活動の拡大が見られた。</p>					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	図書館を利用した学習活動の推進を強化する必要がある。					

事務事業	広報活動推進事業					
事務事業概要	広報活動について、ホームページの内容充実、各種報道メディア等の活用を通し、積極的な情報発信を行う。					
平成24年度 事業の課題 ・改善策	市の情報センターとして、学校や市役所各課にも図書館を活用してもらえるように、情報提供をしていく必要がある。					
事務事業実績	<p>「ほうふ図書館だより」、「としょかんこどもしんぶん」、「新刊紹介」を毎月発行し、「図書館年報」も発行した。</p> <p>行事毎に案内、チラシ等を作成し、日常的なサービスについても利用案内・図書館カレンダー等を作成・更新し、利用者の便に供した。</p> <p>市役所のイントラネットへ、「行政関係図書紹介」を掲載した。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>市役所各課による図書館資料の利用が増加した。</p> <p>市広報や館報・利用案内その他チラシ等を効果的に活用できた。</p>					
平成25年度 事業の課題 ・改善策	市の情報センターとして、広く図書館を活用してもらえるように、資料情報等を積極的に提供していく必要がある。					

(5) 図書館コンピュータシステムの効果的・効率的な運用

事務事業	図書館コンピュータシステム運用事業					
事務事業概要	<p>図書館コンピュータシステムの効果的・効率的な運用による、更なる図書館サービスの向上に努める。特に、インターネットを利用した検索・予約・貸出期間延長その他のサービスを充実し、図書館利用の促進を図る。</p> <p>また、利用者のプライバシー保護の観点から、自動貸出機の利用促進に努める。</p>					
平成24年度事業の課題・改善策	ホームページの内容やデザインを工夫して、スマートフォン等でも利用しやすいものにしていく必要がある。					
事務事業実績	<p>ホームページに電子書籍(防府史料等)の閲覧機能を追加した。</p> <p>郷土資料等の書誌情報を充実し、多面的な検索や内容確認を可能にした。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
	ホームページの内容や機能を充実して、利用者の利便性向上につなげることができた。					
平成25年度事業の課題・改善策	ホームページの各種機能やサービス等の広報を強化して、活用を促進していく必要がある。					

(6) 子どもの読書活動の推進

事務事業	「防府市子ども読書活動推進計画」の実施					
事務事業概要	市の関係各課、小・中学校及び関係諸機関等との連携を図り、子どもの読書活動を推進する。					
平成24年度事業の課題・改善策	防府市子ども読書活動推進連絡協議会における年度ごとの点検・評価をもとに、関係機関の連携を密にして、更なる成果をあげていくことが求められる。					
事務事業実績	<p>7月1日(月)と11月25日(月)の2回、防府市子ども読書活動推進連絡協議会を開催した。市の関係各課及び関係諸団体等の、子ども読書活動推進に係る取組みの実施状況及び事業予定について報告・協議を行った。</p> <p>小・中学校の図書館関係者と教育部関係課との連絡会議を開催した。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>防府市子ども読書活動推進連絡協議会における調査・報告・協議等を重ねることにより、各団体・機関間の情報共有や連携が図られてきた。</p> <p>小・中学校の図書館関係者と教育委員会関係課との連絡会議で提起された課題をそれぞれの取組に反映することができた。</p>					

平成25年度 事業の課題 ・改善策	防府市子ども読書活動推進連絡協議会における年度ごとの点検・評価をもとに、第2次計画の策定を行う必要がある。
-------------------------	---

学識経験者 の意見	2領域14事業で総合評価A以上の実績が上がっており、情報・文化・学習拠点としての図書館の役割が十分果たされていると言える。特に、新規2事業の高評価によってその地歩を固め得たことは、今後に向けて心強い。また総合評価AAを得た「集会・文化活動推進事業」は、市民の積極的な活動状況を反映したものとして注目に値する。今後とも市民の読書・文化活動の推進を積極的に図っていただきたい。
--------------	--

■ 学識経験者の総評

【学識経験者】

山口県立大学 赤羽 潔 教授

【総評】

教育にかかわる動きが急展開している今日、市民の学習・文化活動を支える要の一つとしての教育行政が担う役割はますます大きくなっている。その視点から、防府市の「教育行政点検・評価報告書（対象：平成25年度事業）」について意見を述べさせていただく。

本報告書は、6部局12領域62事業が評価の対象になっており、そのうち総合評価「AA」が3事業、「A」が56事業、「B」が3事業となっている。実に95パーセントの事業が「良好」以上の評価を得ており、また「優良」評価を得た3事業は前年に比して一歩前進した評価であり、その内容は事業方針の骨格の安定化や市民参加の増加実績が反映したものであると言える。この点で、評価ポイント数の前進以上に意義のある実績が蓄積されたと見てよい。

加えて「努力」を要するとの評価を受けた事業についても、状況の変化の中での課題未達成のものであったり、また内容分析等の課題を示すものであり、必ずしも「B=Aより低いもの」とは言えない面がある。すなわち、中長期的視点から見れば課題提起の評価として受け止めるべきであろう。総じて、高い総合評価のもとに、また各事業の観点別評価のポイントも増進しているものが多いという状況のもとに、防府市の教育行政は市民の視点・目線を受けとめつつ、行政固有の役割に沿って着実に前進の歩を進めていると言えよう。

そのうえで、若干の課題コメントを加えておきたい。

まず一つは、ハード面の整備に関する事項である。この領域については「安全・安心」の視点から万全を期しつつ進めてきたと思われるが、一旦成れば長期にわたって市民の動きを規定するものとなる。したがって、諸事情により計画に遅滞が生ずる場合もあろうが、そのような事情によるB評価を恐れずに、現実に立脚してより安全度の高い方策を探るチャンスとしていただきたい。

二つ目に、前進面の積極的発展化である。報告書各領域を通じて市民サイドの歩調と行政サイドの営みの呼応した事業展開が明確に多くなっているように思われる。これは教育行政の真骨頂であると言える。それゆえに、各実績に込められた市民のニーズをより深く分析し、各事業ラインを一層骨太くするよう当該部局の努力はもとより部局間の連絡・連携をより密にして一層の地歩を固めていただきたい。

さらに個別意見でも記したところであるが、「B」評価が続く事業については事業内容評価の概念枠を見直し、量的側面への着目から質的側面への着目を経て、そのうえで量質両面を統一させていくような戦略構成の研究的営みを組む必要があると考える。課題を語る際に、単年レベルで「見直す」というだけでは、事業それ自体の積極的側面に立脚したビジョンを拓けない怖れがあることに留意する必要があるだろう。

以上、防府市の教育行政の堅実な前進的展開に敬意を表しつつ、一層の発展への期待を込めて意見とさせていただきます。